

仙台高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築デザイン演習A	
科目基礎情報							
科目番号	0009			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築デザインコース			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	特になし。適宜参考文献・資料を紹介する。						
担当教員	坂口 大洋,相模 誓雄,伊師 華江,菊池 義浩,楠 拓也						
到達目標							
・テーマに相応しい情報を収集できる。 ・収集・整理した情報を視覚的に表現できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	テーマに応じた情報を収集し、情報を整理し、分析・考察できる。			テーマに応じた情報を収集し、情報を整理できる。		テーマに応じた情報を収集し、情報を整理できない。	
評価項目2	調べたことや考えたことを適切な図を用いて表現できる			調べたことや考えたことを図を用いて表現できる		調べたことや考えたことを図を用いて表現できない	
評価項目3	調べたことや考えたことを、人にわかりやすく説明できる			調べたことや考えたことを説明できる		調べたことや考えたことを説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	設計コンペでは、考えた作品の魅力を図や言葉で表現して相手に伝えることが重要である。本科目では、調べたことや考えたこと、アイデアを図やスケッチで表現するとともに、人に伝える技術の向上を目指す。						
授業の進め方・方法	「建築設計製図Ⅱ」の内容と関連させて進めます。前期の授業内容は、建築デザイン（設計製図）に必要な情報収集、空間創造のトレーニングです。グループワークを中心とし、パワーポイントを使って発表、模型を作製して実験及びアンケート、絵コンテで人が快適に過ごせる魅力的な空間をスタディーします。						
注意点	スケジュールを確認して作業を進めること。授業外の時間も利用して取り組むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 1 回目（グループワーク）		授業のねらい、スケジュール、評価について確認する。 グループ編成（3～4人）。調査する住宅作品（建築家の設計による有名な住宅が望ましい）を決める。		
		2週	リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 2 回目（グループワーク）		調査対象にした住宅作品を、建築雑誌、図書、インターネットを利用して調べる。		
		3週	リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 3 回目（グループワーク）		調査対象にした住宅作品を、建築雑誌、図書、インターネットを利用して調べる。 パワーポイントを作成する。		
		4週	リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 4 回目（グループワーク）		パワーポイントを作成する。 ※パワーポイント提出（データ、ブラックボード）		
		5週	リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 5 回目（グループワーク）		発表 1 回目 住宅作品に関する情報を全員で共有する。		
		6週	リサーチ：住宅平面、エクステリア事例 6 回目（グループワーク）		発表 2 回目 住宅作品に関する情報を全員で共有する。		
		7週	実験：視覚効果を考え、ミニチュアが魅力的に見える展示空間の模型を作り、検証する 1 回目（グループワーク）		グループ編成、アイデア検討		
		8週	実験：視覚効果を考え、ミニチュアが魅力的に見える展示空間の模型を作り、検証する 2 回目（グループワーク）		アイデア検討 模型作製		
	2ndQ	9週	実験：視覚効果を考え、ミニチュアが魅力的に見える展示空間の模型を作り、検証する 3 回目（グループワーク）		模型作製		
		10週	実験：視覚効果を考え、ミニチュアが魅力的に見える展示空間の模型を作り、検証する 4 回目（グループワーク）		実験、アンケート		
		11週	実験：視覚効果を考え、ミニチュアが魅力的に見える展示空間の模型を作り、検証する 5 回目（グループワーク）		検証、レポート作成、 ※レポート提出（データ、ブラックボード）		
		12週	見学：美術館		現地集合・解散		
		13週	絵コンテ：美術館（ギャラリー）で半日を過ごすとし、入館から退館までの主な場面を絵コンテにする 1 回目（個人ワーク）		見学のまとめ（客の動線、利用した室、体験）		
		14週	絵コンテ：美術館（ギャラリー）で半日を過ごすとし、入館から退館までの主な場面を絵コンテにする 2 回目（個人ワーク）		絵コンテの作製		
		15週	絵コンテ：美術館（ギャラリー）で半日を過ごすとし、入館から退館までの主な場面を絵コンテにする 3 回目（個人ワーク）		絵コンテの作製 ※絵コンテの提出（A4用紙）		

		16週	予備日	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス ①住宅のショードローイング	建築雑誌、図書、インターネットを利用して住宅作品について調べる。
		2週	①住宅のショードローイング	建築雑誌、図書、インターネットを利用して住宅作品について調べる。
		3週	①住宅のショードローイング	プレゼンボードを作成する。
		4週	①住宅のショードローイング	プレゼンボードをもとに、建築家と作品の魅力を伝える。
		5週	②アクティビティを表現する	建築空間で生まれるアクティビティについて考え、話し合う。
		6週	②アクティビティを表現する	建築空間で生まれるアクティビティを可視化する。
		7週	②アクティビティを表現する	プレゼンボードを作成する。
		8週	②アクティビティを表現する	調べたことや考えたことをプレゼンテーションする。
	4thQ	9週	③ピクトグラムをデザインしてみよう	現状のサイン・ピクトグラムについて調べる。
		10週	③ピクトグラムをデザインしてみよう	サイン・ピクトグラムの製作
		11週	③ピクトグラムをデザインしてみよう	プレゼンテーションする
		12週	④建築マップをつくろう	特定エリアにおける建築・まちなみを調べる。
		13週	④建築マップをつくろう	特定エリアにおける建築・まちなみを調べる。
		14週	④建築マップをつくろう	リーフレットを作成する。
		15週	④建築マップをつくろう	リーフレットをもとにプレゼンテーションする。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	

				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0